令和８年度第１回「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」有識者会議
会議録

日　時　　令和８年６月８日（月）午後２時00分～午後３時53分
場　所　　教育委員会室

議事日程

第　１　教育長挨拶
第　２　令和８年度 実施方針等の説明
第　３　議題
（１）主要施策の成果から選定した事業
「子どもの権利推進」
（２）定量的指標を用いての点検及び評価
「全国学力・学習状況調査の正答率」
「千代田区立学校の体力・運動能力調査における体力合計点平均値」
第　４　その他

出席者

点検及び評価に関する有識者（４名）

武蔵野大学副学長	上岡　学
元多摩市教育長	清水　哲也
日本女子大学家政学部児童学科特任教授	粂原　淳子
東京学芸大学教育学部教授	高橋　純

事務局（16名）

教育長	堀米　孝尚
子ども部長	小川　賢太郎
教育担当部長	中田　治子
子ども部参事（連絡調整担当） （事務取扱　子ども総務課長）	加藤　伸昭
子ども支援課長	大松　雄一郎
子育て推進課長	神河　洋行
児童・家庭支援センター所長	千野　俊
児童・家庭支援センター 子どもの居場所づくり担当課長	緒方　直美
学務課長	須貝　誠一
指導課長	上原　史士
指導課統括指導主事	相場　奨太

副参事（特命担当） （九段中等教育学校経営企画室長兼務）	大塚　立志
子ども総務課子ども法制担当係長	品治　正
子ども総務課教育政策担当係長	川﨑　涼子
子ども総務課子ども総務係	木村　卓義
子ども総務課子ども総務係	板垣　夏実

欠席者（１名）

子ども施設課長	高島　健太

子ども総務課長　それでは、定刻となりましたので、令和８年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の第１回有識者会議を始めさせていただきたいと思います。

有識者の皆様におかれましては、大変ご多忙のところ、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。私は、本会議を担当する子ども総務課長の加藤と申します。皆様、今年度最初の有識者会議ということで、よろしくお願いいたします。

早速ではございますが、本日の次第に沿って進めさせていただきたいと思います。以降、着座にて失礼いたします。

それでは、次第をご覧ください。１番、教育長挨拶ということで、初めに堀米教育長からご挨拶を頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

教　育　長　はい。委員の先生方、こんにちは。大変お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。第１回の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価ということでお集まりいただきました。本年度は有識者の先生方４名にお願いさせていただいております。

また後でご紹介があるかと思いますが、資料１で、上岡先生は武蔵野大学の副学長をされています。

それから、清水先生は元多摩市の教育長、粂原先生は、現在、日本女子大学家政学部の教授をされております。それから、高橋純先生は本年度からお願いしました。東京学芸大学の教育学部の教授をされております。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

本年度は、議題に書いておりますように「子どもの権利推進」ということが１つ。それから、定量的な指標を用いた点検及び評価の中では、全国の学力・学習状況調査の状況。後で指導課長から説明があろうかと思いますが、学力と体力と、よく両方言われますが、体力、運動能力の調査についても、この２つを定量的な指標を用いたということで、またご理解いただければと思います。

それから、早速、今日と、それから第２回目は現地視察も含めてやっていただきながら、まとめもしていただくような形になろうかと、それはまた事

	務局からお話があろうかと思いますが、先生方の知見を十分活かしていただきながら千代田区の教育委員会にご意見を頂ければ大変ありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
子ども総務課長	堀米教育長、ありがとうございました。 続きまして、初回でございますので、自己紹介をしたいと存じます。 次第の次に名簿をお付けしているかと思いますが、名簿の順番どおりで自己紹介をお願いできればと思っております。 恐れ入りますが、上岡先生から自己紹介をお願いいたしたいと思います。よろしくお願いいたします。
上岡委員	はい。武蔵野大学の副学長をしております上岡と申します。専門は特別活動です。どうぞよろしくお願いいたします。
子ども総務課長	よろしくお願いします。 続きまして、清水委員、お願いします。
清水委員	こんにちは。元多摩市教育委員会教育長の清水でございます。現在、上岡先生のもと、武蔵野大学の教育学部の講師をしております。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。
子ども総務課長	よろしくお願いします。 では、続いて粂原委員、お願いします。
粂原委員	はい。日本女子大学で特任教授、教員養成に関わっております粂原淳子と申します。前任は千代田区のふじみこども園で園長をさせていただいておりました。今も現場に保育訪問で行かせていただいておりまして、子どもたちの実際の様子を見せていただけるのを非常にありがたく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
子ども総務課長	よろしくお願いします。 では、続いて高橋委員、お願いします。
高橋委員	今年度からお世話になります、東京学芸大学の高橋と申します。よろしくお願いいたします。 専門は教育工学やICTなどですけれども、今はいろいろなことに関わっておりますので、少しでもお役に立てればと思います。どうか、よろしくお願いいたします。
子ども総務課長	よろしくお願いします。 それでは、続いて事務局のほうに移りたいと思います。小川子ども部長からお願いします。
子ども部長	教育委員会事務局子ども部長の小川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
教育担当部長	４月からこの職に参りました、教育担当部長をしております中田と申します。よろしくお願いいたします。
子ども総務課長	続きまして、私、子ども部参事で子ども総務課長の加藤でございます。よろしくお願いいたします。
子ども支援課長	子ども支援課長の大松でございます。よろしくお願いいたします。

子育て推進課長	子育て推進課長の神河と申します。よろしくお願いいたします。
児童・家庭支援センター所長	児童・家庭支援センター所長の千野と申します。どうぞよろしくお願いします。
子どもの居場所づくり担当課長	児童・家庭支援センター子どもの居場所づくり担当課長の緒方と申します。よろしくお願いします。
学 務 課 長	学務課長の須貝でございます。よろしくお願いします。
指 導 課 長	指導課長の上原でございます。よろしくお願いいたします。
統括指導主事	統括指導主事の相場と申します。よろしくお願いします。
九段中等教育学校経営企画室長	九段中等教育学校経営企画室長の大塚でございます。よろしくお願いいたします。
子ども法制担当係長	事務局の子ども総務課の品治と申します。よろしくお願いいたします。
子ども総務係係員（板垣）	子ども総務課の板垣と申します。よろしくお願いいたします。
教育政策担当係長	子ども総務課の教育政策担当の川﨑と申します。よろしくお願いいたします。
子ども総務係係員（木村）	子ども総務課の木村と申します。お願いします。
子ども総務課長	今日説明する子どもの権利推進の担当の係長と係員でございます。よろしくお願いいたします。 それでは、自己紹介は以上とします。 続きまして、次第に沿って進める前に、配付資料がお手元にあるかどうかを確認させていただければと思います。 資料１は、名簿となります。 続いて資料２が、点検・評価の方針関係でございます。こちらが今回やっていただく内容となっております。 続いて資料３が、子どもの権利推進に関する資料になっております。参考資料としまして、小学生向けと中学生向けの子どもの権利についてのリーフレット、それから、あともう一つ、パンフレット「こども基本法とは？」を付けておりますので、こちら適宜ご覧いただければと思います。 続いて、資料４でございます。資料４は、全国学力調査の正答率で、こちらで設けている様式でございます。 それから、続いて資料５が、体力・運動能力調査で、区で設けている様式となってございます。 最後、参考としまして、点検・評価を行う際、皆様からのご意見を記載していただくものとなってございますので、ご確認いただければと思います。
子ども総務課長	それでは、まず実施方針等のご説明ということで、概要の説明を資料２でご説明させていただきます。資料２をご覧ください。 今年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施についてでございます。これは、目的につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づきまして、毎年度、有識者のご知見を頂きながら点検・評価をして、課題や取組の方向性を明らかにすることで区民等への説明責任を果たすといった内容となってございます。

３番の委員については、省略させていただきます。

４番の令和８年度の方向性ということで、（１）本区の子育て・教育行政の主要な施策を理解していただきたいという思いから、決算のときに作っております「主要施策の成果」を利用して、点検及び評価を実施させていただきたいと思っているのが１点目。それ以外に、定量的な指標を設けて、客観的な根拠に基づいた点検・評価を実施させていただきたいと思っております。

（３）につきましては、この点検・評価を実施した結果を来年度の予算に反映させたいということで、７月後半から予算編成事務が始まりますので、上半期を目途にこちらの有識者会議を実施させていただきたいという方向性でございます。

今回、主要施策の成果から選定した事業ということで、子どもの権利推進が１つ。こちらについては、令和７年度にワークショップやアンケートの結果を、talk to the cityというAIによる分析をいたしまして、その内容を踏まえ、子どもの居場所創出のための取組、またそういったものについての今後の方向性について検討していきたいということで選定させていただきました。

もう一つが、ICTの学校教育システムの推進ということで、今回は九段中等教育学校における先進的な事例、またはシステムリプレースに向けた検討実績と「ちよだリテラシー教育」の実施状況について点検・評価を頂いて、新たな課題、またその後の方向性といったところについて皆様からのご知見を頂きたいというところでございます。

それから、定量的指標についての点検・評価でございますが、今回は、先ほど教育長からお話があったとおり、全国学力・学習状況の調査状況、また、体力・運動能力調査における状況といったものにつきまして、２つを選定しております。

今後の日程でございます。本日６月８日に第１回の有識者会議を実施しまして、６月22日には第２回を実施させていただきます。その後、こちらの報告書を取りまとめまして、教育委員会で審議した上で、議案の提出、教育委員会の議決を頂きたいと思っております。議決終了後、10月の議会の常任委員会へ報告させていただきたいということで、現在、予定としては考えてございます。

こちらについてご説明は以上でございますが、何かご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（な　し）

子ども総務課長　はい。ありがとうございます。それでは、次第の３番に移りたいと思います。

それでは、資料３をご確認いただければと思います。こちらについては、子ども総務課が実施した所管となりますので、私から説明させていただきます。

これは令和７年度に実施しまして、子ども、保護者へのアンケートと子どもワークショップの結果を８月に行いましたので、そちらの結果と、これからその方向性についてご報告させていただきたいと思います。

調査の背景ということで資料の一番左上に記載しておりますが、国が令和５年４月に施行したこども基本法で、こどもに関する施策について、こども等の意見を反映するために必要な措置を講ずることが義務付けられたといったところであります。千代田区においても、子どもから意見聴取や政策反映に係る取組をさらに推進していきたいといったことで、今回このような取組をさせていただいたところでございます。

２番の調査概要ですが、１つ目はアンケート調査を昨年６月20日から７月19日に実施いたしました。アンケートの内容でございますが、「区から子どもへの情報発信」をどうしたらいいかというのが１つ。あとは、「子どもから区への意見発信」。ここが情報発信という意味で１つでございます。それから、「子どもの居場所」というテーマ。テーマは２つでございますので、そちらの２種類を子ども用と保護者用のアンケートで実施いたしました。

子どものアンケートでございます。小学４年生から18歳、高校３年生までの区民ということで、抽出数は5,600余という数字ですが、回収できたのは671名、回収率は12.2％でした。

保護者ですが、４歳から高校３年生までのお子さんを持つ保護者が8,562人でございまして、回収数は1,020人ということで、11.9％となってございます。

以上、アンケート調査をした結果、少し回収率が低いのですが、特に許容できる範囲だということですので、その点はご了承いただければと思います。

今回のアンケートで、生成AIによる分析を千代田区として初めて試みたところでございます。ブロードリスニングということで、この図の一番右側、多くの声について生成AIを使って上手に収集するという形で、自由記述、何を書いてもいいですという回答を生成AIで今回分析したところでございます。

もう一つ、右上の（２）のワークショップの実施でございます。これを８月４日と６日の２日に分けまして、初日は子どもの居場所で、２日目は区から子どもへの情報発信と子どもから区への意見発信という２つのテーマで実施しました。

参加人数は、30名募集したところ、申込み自体は40名程度あったのですが、当日部活動で来られなくなってしまった子がいまして、最終的に29名という参加人数でございました。内訳はこちらのとおり、小学生９名、中学生９名、高校生11名という結果でした。

なお、ここには書いていないのですが、男女比率は、男性が10名、女性が19名で、３分の１が男子、３分の２が女子という結果でございました。

アンケート調査の結果概要でございます。

基礎情報ということで、千代田区の区民のうち区立に通う小学校の割合でございます。いつも皆様に申し上げているところですが、大体８割といったところで、小学校の場合は区立がこういう裏づけが取れてよかったというところでございます。それから、中学校は区立が49.4％、それから私立が44.2％ということで、こちらも大体、通常言っているとおりぐらいの数字になっているかと思っています。

それと、その下ですが、子どもの人数が、２人いるという回答が49.2％でございました。また、３人以上いらっしゃるのが20％いらっしゃるという結果も今回調査して、こんなにお子さんがいらっしゃるご家庭がいるのだといったところが驚きでした。お一人という世帯は29.5％でございました。

それから、続いてですが、区から子どもへの情報発信ということで、何を一番見てくれているのかといったところで一番多かったのは紙の「広報千代田」で、特に保護者は87.2％。これだけ広報千代田を見ていらっしゃるということで、非常に驚いたところでございます。もう少しウェブやホームページなどを見られるのかと思っていたのですが、やはりまだ紙なのだといったところでした。

それから、②番は飛ばしまして、③番でございます。「あなたは、区の制度や政策について、どのような情報がほしいと思いますか。理由も教えてください」ということで、これは自由記述、お子さんのアンケートの結果でございます。この右下の図が生成AIによって二次元で分析したということでございまして、最も多く求められている情報ということで、「学習・子育てに関する情報」、ここがやはり一番多い母数を占めていたというところです。特に、どこで勉強できるのか、また勉強できるのも静かに勉強したいか、それとも話しながら勉強したいのかといった情報を結構欲していらっしゃるといった結果でございました。それ以外には、防災や、また議会、予算などといった情報も求めているというのが分かりました。

また、子どもにとって重要度が高いのですが、届いていない情報で多かったのが「遊ぶところ」でございました。ですので、もう少し、いろいろ、遊べる場所について、情報をどういうふうに届けるのかといったところを考えていかなければいけないと思ったところです。次いで、「交通・防犯」、また「ごみ・美観／環境」などという結果になっております。特に、「選挙・議会」、「税金」の情報は難しく、理解しづらいといったご意見も頂いたところです。

続いて、子どもから区への意見発信ということで、「あなたは、区の制度や政策について、区役所の人に意見を伝えられるとしたら、どのような方法や手段があれば、よいと思いますか」という質問ですが、こちらも子どもに対してのアンケートで、アンケートでもいいですし、また「メール・インターネットの意見フォームなど」、「手紙」、「SNS」と続くのですが、意外に「直接話す」、または電話、あと区の施設の職員やスタッフに話すといった、直接的な双方向のコミュニケーションを求める回答は一定数あったとい

うところで、やはり２方向必要なのだといった結果が今回のアンケートで分かりました。

また、ワークショップの事後アンケートで参加した子どもたちからは、もやもやしている自分の意見を言語化できたとか対面でも意見を言いやすかった、また、友達や、昨年度やってくれたファシリテーターと話すことで考えがまとまって発信できたというご意見も頂いたところです。また、ワークショップの内容を、グラフィックレコーディングで可視化したところでございます。

続いて、（４）子どもの居場所のニーズでございます。「あなたにとって、ほっとできる場所、「ここにいたい」と感じる場所」のアンケート結果でございます。「ほっとできる場所、「ここにいたい」と感じない（ほしい）」という回答が52%、6.7%、あと1.6%ですが、約６割の子どもが、自分の居場所があまりないと感じている状況でございます。あと、そのうち、少しいろいろ深く掘り下げてアンケート結果を見ますと、子ども部屋、きょうだいと共有を含んでも、「ない」という回答が半数。特に高校生は、４分の１が自分の部屋がないという、千代田区の、やはりなかなかマンションの部屋が狭いといったところもあるとは思うのですが、そういう状況だといったところが今回分かったところです。

あと、「あなたにとって、ほっとできる場所、「ここにいたい」と感じる場所は次のうち、どれですか」。「家」、「学校の教室」、「図書館」という、普通のところではあるのですが、ここで驚いたというか、少し裏返しで考えると、自宅ではないという人が11%もいるのだといったところが、いろいろ考えていかなければいけないところかと思っております。また、学校や家以外のサードプレイスを持てていない子どもが約３割いるという結果でございました。居場所の数が少ない子どもは約４割という結果でございます。

次が、（５）子どもの居場所として求められている機能ということで、お子様の学習や進路について、どんなサポートがあればいいですかという、これは子どもと保護者、両方とも聞いたのですが、１位は、「家・学校以外で勉強に集中できる場所」が欲しいということと、２位と３位が、少し、子どもと保護者で入れ替わっている状況です。

続いて右上の②番、千代田区で、家や学校以外の新たな子どもたちの居場所をつくるとしたら、どういうことをやってみたい、こうしてほしいという意見を教えてくださいと。これも自由記述で生成AIに分析していただいたところです。子どもから一番多く求められていた機能は「静かに勉強できるスペース」でした。保護者にとっても、中高生のところや、あと大人の見守りがある施設というところが、母数が一番多かったところです。ワークショップの中では、「静かに勉強できる場所」が一番多くて、次が「スポーツや運動ができる場所」、その下が「友達と勉強・休憩」ができる場所など、こういう形での結果となりました。保護者はやはり先ほど言ったとおり、その場所について、大人の見守り、大人の関与があったほうがいいと。特に、多分

思春期のお子さんばかりでいると、何か事が起きると、やはりいろいろ大変だとは思うので、そういった声が大きかったかと思っております。

２日目のグラフィックレコーディングを受けまして、区から子どもへの情報発信ということで、子どもに届けるツールを充実させることであったり、子どもに届ける情報について選別するといった方向性でございますが、この段階のときに考えておりましたのが、キッズページを作るとか、あと子ども広報を作るとか、そういったのも考えて、今、検討しているところです。また、子どもに届ける情報について選別するといったところで、やはり興味・関心が持てないと読まないという傾向が誰しもあるかと思うのですが、そういったところを勘案しながら、様々な媒体を利用しながら、子どもたちに伝えていきたいと思っております。

特に、子どもたち自身、スマートフォンなどの利用に抵抗がない状況でございますので、例えば京都ですと、子育て応援のインフルエンサーということで、動画でいろいろ発信している人たちが区の情報発信をしていただくことをやっているそうですので、そういったところも考えていきたいと思っております。

続いて、４番の今後の方向性の（２）です。子どもから区への意見発信ということで、オンラインまたオフラインによる様々な環境を整える必要があるだろうということで、先ほどもWebアンケートであったり、あと、直接話すという双方向のコミュニケーションを求める声もありますので、今回みたいなワークショップの場を設けてやっていきたいと思っております。

続いて、右側の（３）番、区と子どもの双方向のコミュニケーションに向けてということで、物理的な場所を創出したいと思っております。これについては、もう常任委員会で言っているので、12月ぐらいに新たに廃校になっている中学校を利用して、子ども、中高生の居場所といったものを設けると。今現在、これから工事を進めていこうとしておりますので、そういったところを現実としてはもう動いて実施しようと思っております。

右下は、区役所の職員が子どもにどうやって意見を聞いたらいいか分からないという声もあり、昨年子どもの権利についての研修を実施いたしました。そのときに、職員からのアンケート調査で、何かガイドラインみたいなのをつくってもらえないかという声がありましたので、今年度このガイドラインをこれからつくる予定でございます。

それから、子どもの居場所づくりということで、先ほど子どもがサードプレイスを持っているといったところが少ないという結果でございましたので、中高生の居場所づくりをこれから進めていくというところでございます。そこの場には大人の関与を求める声が多いという保護者のご意見もありますので、そういった形でできないかと、今、検討しております。

あとは、中高生専用の居場所の検討といったところで、こちらを、今、「武蔵野プレイス」と書かせていただいております。どういう形でやるのかと、また今後、あくまでも12月に開くのは実はプレ施設ということで本施設

ではないところもありますので、そういった施設の必要性、どういう機能が必要だといったところも検討させていただきたいと思っておりますし、右下では地域団体と様々一緒に取り組んでいきたいといったところの記載をしております。方向性としましては、こういった方向性で取り組んでいきたいといったところですが、皆様から様々なご意見を頂いて、さらによいものとなるようしていきたいと思っております。

私からの説明は以上でございます。

それでは、質疑応答に入らせていただきたいと思います。ご疑問やご質問などございましたら、どうぞ遠慮なく挙手していただいてからご発言いただければと思います。よろしくお願いいたします。

上岡先生、よろしくお願いします。

上 岡 委 員　本当にいろいろなデータがあって、とても面白いと思ったのですけれども、先ほどの説明にもありましたように、その中でも特に驚いたのが、高校生の25%、子ども部屋がないというところです。これは定量的なものですので定性的にどうなのかは分からないのですけれども、もう少し掘り下げて、どんな状況かを調べられるといいかと思います。

というのは、あえてつくっていないということもあります。広い部屋にして部屋を区切らないという考えです。そのような考え方で部屋を作っていないということもあり、どういう状況なのか。広い家で部屋があり余っているようなことも想像していたのですがそうではないということなのでしょうか。住宅価格は高いが狭いということなのか。そうではなくて、あえて部屋をつくらないということなのかというところは、もう少しわかると対応が変わってくるのではないでしょうか。要するに、親は意図的に部屋を作らないのか、それとも仕方なくそうなっているのかによって対応は変わるのではないかと考えます。

子ども総務課長　ありがとうございます。

まずはご答弁申し上げますと、多分それぞれファミリーで住んでいらっしゃる部屋で、大きくても多分80平米ぐらいかと思います。特に、実は今度造る中高生の居場所のプレ施設の真裏にできたマンションで、80平米で２億円くらいだと聞いております。中古のマンションでも多分あまり変わらないぐらいの金額かとは思います。岩本町にできたマンションで１億5,000万が安いぐらいの話を聞いたりもしているので、正直、やはり本当に、不動産の価格は相当高い。また、そんなに広くはない。何か400平米の部屋もあるとか、同じマンションで、先ほど言った80平米の２億円のお部屋で聞いているのですけれども、それの初売りが12億だと聞いているので、もう、なかなかそんなに広い部屋は、まず、ないのだろうといったところが実感としてございます。ですので、多分部屋がもともとないと分かっていて買っている可能性が高いという、千代田区における不動産、またファミリー世帯が入るマンションというのはそういう状況なのかと思っております。

上 岡 委 員　あと、多分80平米というと、我々からすると普通のマンションで少し部屋

を区切っているけれども、千代田区のマンションはそういう昔ながらの造りではなくて、リビングを大きくしてというような、何か今風のアレンジの造り方をしているのかと思いました。

子ども総務課長　どういう使い勝手をされているのかまではなかなか分からないのですが、もしもう一回アンケートをしたりする機会があれば、そういったところも確認したいと思います。

教　育　長　マンションの大きさとかは、住宅や建築のほうで分からないのですか。

子ども総務課長　建築統計をしているので、それは分かると思います。

教　育　長　やはり造りもあるかもしれないのですけれども、高くて、部屋数がないと。よく３人いると思うのですが、やはりそれは自分の部屋はなく、例えば親の部屋と子どもの部屋が１つか、よくて２つ。それが精いっぱいかと。千代田区の広さから言うと、詳しい数字はないのですけれども、なかなか難しいのですね。

上 岡 委 員　そう考えると、このデータというのは、本当に千代田区特有のデータで、そういう意味でここからサードプレイスを廃校につくるというのは、千代田区独自の特色ある政策になるのではないかと思いました。

子ども総務課長　ありがとうございます。

粂 原 委 員　このアンケート調査の回収率が12.2％と11.9％ということで、回収数は少なくはないのですけれども、回収率としては決して高くないと思うのですが、どういう方法で配付したのかをお伺いしたいと思いました。

子ども総務課長　はい、分かりました。

今回、こちらのアンケートはWebアンケートで、皆様にはがきでQRコードを掲載して、それでお送りさせていただいたところです。どうしてもやはりWebアンケート自体は回収率が悪いとは聞いてはいたのですが、今回はtalk to the cityを使う、AI分析をするというところで、Webを使う以外に選択肢が正直あまりなかったというところです。

あと、区の安全・安心関係の、子どもたちへ送信する「すぐーる」というアプリにまず保護者の方々にはメッセージを送って、実施させていただいたところです。あと、実はこのアンケートに答えると、抽選で、140名に2,000円の図書カードを配ります、と。少し回答率をよくするためにそういうこともやったのですが、ご覧の結果となってございます。

粂 原 委 員　アンケートの目的が、幅広くいろいろな子どもたちの意見を聞くということであれば、対象者を不特定多数にするという意味もあるかと思います。あとは特にこういう層の子どもたちを対象にアンケートをすることもあるかと思うのですけれども、例えば感度の高い子だけではなくて、意見の発信をしにくい子どもたちの意見を拾うために、学校において、タブレットなどで行うと広くいろいろな子どもの意見も拾えるのかと思いました。

子ども総務課長　ありがとうございます。実は、今回、対象を、区立学校だけではなくて私立学校に通うお子さんのご意見も聞きたいという区長のかなり強いご意向もあって、それで区内に住んでいる、ここに書いてある年代のお子さんたち

に、特に対象を大きく絞らず聞いたところです。粂原委員からおっしゃっていただいた小学校とか中学校、また高校で使っているタブレットで送って聞くというのは、それはもう区立のお子さんならできる話なのですが、私立のお子さんも含めて聞くといったところで、今回、多分初めて、我々としてはチャレンジした試みでございます。ですので、区立だけそんなに力を入れてやることとなってしまうので、アンケートの意味としては難しいだろうといったところもあって、そこまではやらなかったところではあります。

粂 原 委 員　私立の子どもたちは、１人１台のタブレットはないのですか。

子ども総務課長　持っていると思います。それでQRコードを読み取っていただいて答えていただくということは、それは可能です。

粂 原 委 員　可能なのですね。

子ども総務課長　ただ、我々、私立のお子さんたちに送るというツールが、住所以外分からないので、なかなかそこまでは。もう、送ったはがきを見ていただくという以外になかったというところです。

粂 原 委 員　今回、区のホームページとかにQRコードとか。

子ども総務課長　それはもう、つけさせていただきました。

粂 原 委 員　いろいろな子どもの声が拾える工夫があるといいかと思いました。

子ども総務課長　はい。ありがとうございます。

清 水 委 員　この子どもの権利についてのリーフレット、これは小学生向けと、こちらは中高生向けですね。

子ども総務課長　はい。

清 水 委 員　これをもらったら、学校でしっかり読んだりできるのだと思って、すばらしいものを配られているのだというのが分かりました。さっと読んだだけですけれども、中高生向けの中には、不登校の子どもに対しても、不登校になっている子も相談できますという内容が書かれているので、今までの千代田区の不登校児童生徒への取組が生きていると、改めて思いました。

子ども施設課長　ありがとうございます。

清 水 委 員　今回このアンケートで、子どもの意見を聴取というか、子どもの意見を拾って、教育委員会や区の施策にどうフィードバックされているかというと、それは子どもの居場所を創出するところにフィードバックさせるのだということを我々は評価していけばよろしいですか。

子ども総務課長　はい。評価の方法は多様だとは思います。そういうのも１つだろうと思います。

清 水 委 員　ご説明を頂くと、居場所の創出というところにポイントが置かれているように思うのです。そういう捉え方を我々はしてもよろしいということですか。

子ども総務課長　そういう捉え方をしていただいて全然構わないです。よろしくお願いいたします。

清 水 委 員　はい。以上です。

子ども総務課長　ありがとうございます。

教　育　長　　居場所といって、どんな居場所をつくっていくかというのは、子どものニーズに合っているのかどうかというのが一番だと思うのです。昨年度もやった居場所、つくったはいいけれどあまり来なかったとか、そんな数字もあったのだけれど、今回これをやることによって、やはり子どもたちのニーズに合った居場所をつくっていこうというような方向は大体分かってきましたよね。

子ども総務課長　　はい。また、今回、キース・フォーラムを令和８年８月５日に、またこちらのワークショップをやらせていただくのですが、今回は中高生の居場所をテーマでやらせていただこうと思っています。ですので、よりもう少し具体の、どういう機能を求めているとかどういう運営をしてもらいたいとか、そういったところの意識を子どもたちにいろいろ意見を出してもらって、それを参考に運営させていただければと考えております。

高 橋 委 員　　まず、アンケートのほうはいろいろあるというのは、この分析もtalk to the cityでほかにも多分いろいろ出てきたと思うのですけれども、これに出てきたこと以外で、ほかには何か分かったことというのがあるのですか。

子ども総務課長　　アンケートは、317ページ分あるものを要約しております。これはホームページに掲載させていただいております。

先ほど申し上げたアンケート以外のところの内容ですと、私として驚いたのが先ほど言った、89％ご自宅と答えていただいているという中身です。自宅以外は、正直、あまり、どんぐりの背比べぐらいですが、友達の家だったり、教室以外のところとか、あと、習い事、塾も、当然サードプレイスになっているといったところで、もう少し何か娯楽の部分が結構あるのかと思ったのですが、意外にそこがそうでもないといったことが驚いたというか。もう少しファミレスとか、何かそちらで勉強しているとか、サードプレイスになっているのではないかと思っていたのですけれども、それがそんなに多くはなかった。やはりお金がかかるところには行けないのだと思ったところは、これは多分ほかの自治体でも似たような状況かとは思いました。それが１点と。

なぜそこがほっとできる場所、ここにいたいと感じる場所ですかといったところで、「好きなこと、やりたいことで過ごせるから」の次が、「ひとりで過ごせたり、何にもせずにのんびりできるから」という回答が、これが小学生から高校生まで、ひとりでいたいのだというのが、少し驚きました。あとは、「いつでも行きたいときに行けるから」とか「自分が自分らしくありたい。自分でいられるから」、「友達が一緒に過ごせるから」といったところ、これは普通かと思ったのですが、「ひとりで過ごせたり、何にもせずにのんびりできるから」が２位かというのは、少し、いろいろ思いました。

あとは、保護者の方で驚いたのが、「土日祝日など日単位でお子様と一緒に過ごせる日はどのくらいありますか」といったところで、週２回以上が１位なのはそうなのですが、やはり「ほとんどない」と回答されている方がいらっしゃるのだといったところであったり、「月に１～２回」という方もい

らっしゃるのだというところで、なかなかお子さんと接点をつくれないご家庭もあるのだといったところの認識は、今回いろいろと考えさせられるところでございました。

あと、「現在のお子様に、お子様の部屋はありますか」といったところで、「子どもの部屋はない」といったのが、これは本当にすごく衝撃的でした。ここのクロス集計が、先ほど言った高校生のところで、子ども部屋が24.4%、子ども部屋がないといったところが、小学校未満とかはまだ分かるのですけれども、どんどん年齢が上がるにつれて部屋がないといったのが顕著に分かっていくといったところの回答が、先ほどのより詳細分析した結果でございます。

少し長くなるので、このぐらいにさせていただきます。

高 橋 委 員　はい。ありがとうございました。参考になりました。

これは調査結果には使えないのかもしれないのですけれども、こういうアンケートとかも、生データをそのままAIに入れておくと、ほかの自治体のも全部入れておくと、うちの自治体は上ですか、下ですか、仕分けしてくださいとか、ああいうのも全部できたりして、非常に、こういうきれいなものを見るのもあるのですけれども、こちらからインタラクティブにAIに問い合わせるというのも結構便利だと、きっと千代田区だから、あのAIは駄目、このAIは駄目とか言って多分これになったのだと思うのですけれども、静的に止まったデータを外注して作ってもらうみたいな世界観から、その都度やはり知りたいデータをつくってもらうみたいな、疑問をどんどん聞くみたいなAIの使い方に移っているので、代替的な使い方から拡張的な分析みたいなので視野を広げていくというやり方もあるのか、などと感じました。

あと、内容的には、多分居場所の話がすごく出ているのだと思いますが、地方はよくも悪くも、駅前とかは高校生の居場所づくりが結果としてできてしまっているのです。つまり、デパートが潰れたなど何かが潰れたというと、もうそれをそのまま置いておけないので、役所が買ってそのまま置いておくとどうしようもないので、高校生の居場所に、図書館をつくって役所の窓口をつくって、高校生の居場所をつくっていくというのが大抵のパターンですので、意外とノウハウは地方にあるかもしれない。

例えば、ワークプレイスとかワークスペースみたいな感じで、起業の人とか個人事業主の人用につくっても、高校生に開放してしまうと高校生に占領されちゃうみたいな感じのことがすごく多い。ですので、やはり全国的にニーズが強いのだと思います。ただ、見ていると、そこでいろいろな恋愛が起こっていたり、やはり大人がいないといけないというのは非常に感じます。

この間、石川県小松駅の前に、新しい、すごい格好いい、きれいな起業家の人たち向けのワークプレイスをつくって、有料なのですけれど、やはり高校生用のパスを作ったら、それがもう全部売れてしまって、今、高校生は受け付けていませんみたいな。だから、やはり、これは全国的な悩みだと思うのです。千代田区はどこでも交通の便がいいと思うのですけれども、駅前な

どに勉強する場所みたいなことをつくって、石川県小松駅などだとピアノを弾く場所とかもあったりして、得意な子は弾きに行って、それを聞いた高校生が集まると。意外と何か高校生コミュニティが地方でできている。多分、日本中、富山の駅前とかも結構そうなので、高校生たちは仮に大きな家に住んでいて部屋があったとしても、やはり家でないところで勉強したいというニーズは強いのかなどと思いました。

もう一つ、この２件を聞くという話は、今後の東京都の子ども・子育て会議でも、高校生委員が指名されて、その影響で子ども・子育て会議が夏休みに開催なのですけれど、その選定プロセスで、手を挙げてもらったら、思ったよりすごい人数の応募がありました。意見を言いたい高校生に何か委員とかで指定してあげると、一生懸命調査とか、こういうアンケートにも答えてくれたりするのではないかと思います。東京都の子ども・子育て会議では、会議の前に高校生と会って意見を深める会というのが設定されているので、何かやはりすごく、手厚くやらないと危ないのかもということで、事務局も手間が増えて大変かもしれませんけれど、そういった都の動きもあると。

以上です。

子ども総務課長　ありがとうございます。

高 橋 委 員　新幹線ができて、駅が全部きれいにできたときに、何か自由に食べられる、何か飲食店みたいなフードコードみたいなのもできたし、個室、そこのお店しか使えない喫茶店みたいな、椅子が並んだところもあるのですけれども、やはりどこも高校生はお断りと結局貼られて、それで、何かお金を払ったら使えるという起業家向けのエリアがあって、この間は高校生のパスはもう売り切れているので来年をお待ちくださいみたいな貼り紙がしてあって、夕方行くと、高校生で全部の席が埋まっていると。結構広いのです。だから、千代田区もやったら、千代田区外の人が来てしまうかもしれないけれど、千代田区はそんな人口ではないと思うので。上手にやればすごい人数だと思います。

子ども総務課長　ちなみに、区役所の10階が食堂になっておりまして、その食堂で高校生が結構友達と勉強していたり、お話ししていることが間々あります。

高 橋 委 員　そうですね。都立図書館を結局高校生がすごく勉強することになって、今、建て替えの話があるではないですか。だから、あれはやはり高校生の勉強場所としていくのか、図書館でいくのかというのも、これもまた話題で、高校生は居場所をやはりすごく探していると思います。

子ども総務課長　分かりました。ありがとうございます。

上 岡 委 員　関連したことを申しますと、利便性のいいところで、結構中高生が勉強できるようになっていて、例えばある駅では駅に隣接している施設に高校生が勉強できるところを造っていたりしています。その中で、やはり私は、前にもお話ししました武蔵野プレイス、古いのですけれどもものすごく完成度が高いのです。あそこに住み始めた人から聞いたことがあるのですが、武蔵野市に住むのはプレイスがあるだけでも意味があるというぐらいの完成度とい

うことなので、千代田区はそのような施設を造るとよいのではないかと思いました。

あと、もう一つは子どもの権利推進ということです。やはり教育に関して言うと、一番これとつながってくるのがヤングケアラーとか、あるいは虐待とかネグレクトだと思います。要するに、ある意味、家庭の問題との関連です。家庭内のことはなかなか立ち入りにくいところではあります。また、子ども自身も、小さい子だと、自分の家が普通だと思っている。それで、子どもの権利にはこういうのがあるということがあっても、自分の家が普通だと思っているとそこと結びつかないということがあると思うのです。その辺りが結びつくような教育。だから、多分このリーフレットを使ってどう教育するかがすごく大事なことなのではないかと思うのです。これはよくできたリーフレットですけれども、これを読んでも自分と結びつかなければいみがありません。家庭の問題で難しいとは思うのだけれども、それを子どもが自分でここととつなげて考えられるように教育、指導をしていく必要があるのかと感じました。

子ども総務課長　はい。ありがとうございます。

このリーフレットを使って、学校の中で、指導課から学校にお願いして、授業として展開していただいている学校もあるのですが、そういったところも踏まえて、もう少しいろいろな学校でこういう状況、また児童・家庭支援センターなどが虐待関係の担当ですので、そういったところも連携して、産官学連携もこれは子ども総務課のほうでやっているのですが、その辺りも踏まえて、官は区役所のことですけれども、区役所とも何かそういう学校現場と上岡先生がいっていただいたようなことを上手く結びつけられればと思います。どういうやり方でできるかは、また検討させていただければと思います。

教　育　長　子どもの権利のリーフレットを使っている実態でしたら指導課に言ってもらったら。

指導課長　このリーフレットを使っている教科としては様々あると思うのです。特別活動でも社会科でもやるし、あと、道徳で扱うというところもあります。多分それぞれの発達段階に応じて上手に扱っていただいているところかと思います。ですので、そういったところで、ここはしっかりこのリーフレットを、一度必ず目を通すように、各学校には指導しているところです。

併せて、今、上岡先生のお話だと、どう拾っていくかも大事ですので、たくさんの大人が関わっていってあげることがすごく大事なのかというところで、子どもの権利についてもそうですし、併せてこういった子たちがしっかり自分は違うとか、同じとかではなくて、本当にいつでも相談できる、そんな体制ができるのが一番いいのかとは思って、むしろ助言しているところです。

あと、これは１人１台端末にも、デスクトップ上についています。

粂原委員　今回、子どもたちの意見を取り入れた施策をしていくということで、それ

をどう進めていくのかが課題かと思います。居場所について子どもたちが意見を出して、それをどうしていくのかということは非常に大事なことだと思うのですが、この千代田区の取組は、子どもたちの意見を施策に反映させていくというところと、意見を表明すること自体に大きな意義があると思います。

子どもがいろいろな方法で、例えばワークショップとかを通して考えを深めて自分の意見を出していく、そして、それによって変えることができるのだという実感を持つことが、これからの子どもたちの社会づくりの基盤を育てていくのだと思います。こういう取組を継続して積み重ねていただいて、意見を発信する力を育んでいただきたいと思います。

あと、このアンケートの処理をするときに、たくさん母数があって大変なことなのですが、例えばAIで分析して出てくることと、実際に自由記述を読んでそこから感じ取るメッセージとか、熱とか、子どもの本音が伝わってくると思うので、やはりこの分析のシステムの中に人の目が入って実際に読む、目を通す作業が不可欠かと思います。

私も大学で学生のレポートなどをフィードバックするときに、AIを使って分析をしたりするのですけれど、やはりそこに心を動かされるものというのはあまりなくて、でも実際に目を通してみると、こんなことも考えているのかとか、こういう経緯をたどってこの結果にたどり着いているのだということを感じることがあるので、AI分析とともに、子どもたちの思い、結果の背景にある思いに目を向けて、施策に生かしていく必要があるかということも思ったところでした。

子ども総務課長　ありがとうございます。実は先ほど見ていた資料の中で、自由記述のものは全部一覧で見ることができます。やはりこれを私どももAI分析はしたものの、やはりいろいろ書いてあることがすごく多岐にわたっているといったところは、これで認識させていただいて、本当に回答がすごい件数があるので。

やはり子どもカフェとか、何かそういうのを書いてくれたりとか、面白いアイデアとかもあるとは思ったりしてはいますので、やはりAI分析だけに任せず、人の目で見ていくといったところも必要かと思います。ありがとうございます。

あと、よろしいでしょうか。

（な　し）

子ども総務課長　はい。では、続きまして、次の議題に移りたいと思います。

それでは、（２）定量的指標を用いての点検及び評価でございます。まず、それでは、全国学力・学習状況調査の正答率ということで、指導課長、ご説明をお願いいたします。

指導課長　はい。それでは、私から、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた現状と今後の方向性についてご説明を申し上げます。

まず、現状についてですが、千代田区立の小中学校、中等教育学校は、ま

ず全ての子どもたちに確かな学びを保障することを目指しまして、全国学力・学習状況調査を重要な指標として活用しています。

左の表とグラフを見ていただければと思います。令和４年度から令和７年度までの結果という形で見ますと、上が小学校６年生、下が中学校３年生です。ともに、国語及び算数、数学についてですけれど、平均正答率は全国及び東京都の平均を安定して上回っている状況というのはございます。基礎的な知識技能の定着については一定の成果が見られているのではないかと考えています。特に、小学校６年生の上のほうを見ていただきますと、国語、算数ともに、常に高い水準を維持していて、学習の内容の理解が着実に進んでいる状態。一方、中学校３年生ですが、全国と東京都の平均を上回っているものが年度によって少し平均正答率の変動が大きいという特徴があります。これですけれども、やはり学習内容の高度化に伴いまして、基礎の定着が十分でない部分が後の学年で顕在化している可能性を示しているのではないかと考えているところです。

続いて、下のグラフです。こちら、全国四分位による層分布の分析となっています。少し多くなって見づらいのですけれども、これを見ていただくと、千代田区ですけれども、グラフの一番上で、全国とか東京都と比較して上位層の割合というのは、高いです。ただ、下位層の割合が少ないという傾向にあります。これは区の教育施策の成果であるかとは思っております。ただ、下位層が存在しないわけではないので、学習内容の定着に課題を抱える子どもたちが一定数いることも明らかになっています。この点については引き続き大きな課題とは認識しております。

本区では、一人一人の学習状況に応じた課題を適切に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図ることで学習内容の確実な定着を実現し、そして全ての児童・生徒の可能性を最大限に引き出し、これからの時代に必要な資質、能力を育成することというのを目標としているところでございます。

こういったためざすべき姿の実現に向けて、この全国学力・学習状況調査においては、引き続き全国と東京都の平均を上回る水準を維持するとともに、特に基礎学力の定着が十分でない層への支援を強化して、学力の底上げを図っていくことを目標としています。

資料の右下の施策の成果についてです。本区ではこの学習状況調査だとか、あと達成度調査というのも区で独自にやっていますが、その結果を活用して各学校において指導改善プランを策定して、このプランの円滑な実施に関する取組を進めているところです。令和７年度、昨年度においても、この取組、しっかり実施されまして、各校が自校の課題を具体的に把握しまして、教育活動の改善に結びつける動きが見られました。その結果、教員一人一人の授業改善の意識というところも高まって、校内研修や研究が活性化するなど、学校全体としての授業改善への意識も高まっているところです。また、授業改善に取り組む体制も、実際、強化されているところです。

具体的な取組としましては、デジタル学習基盤としてのICTの活用や補充学習の実施、あと習熟度を確認する単元テストの実施、あと、授業研究の工夫、そんなことが挙げられるところでございます。

また、この授業研究を通して、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進める授業づくりも現在推進しているところでございます。これらの取組を継続的に行うことが、平均正答率の維持、向上に寄与するものと考えています。

最後にですけれども、今後の方向性についてです。今後、この学力調査の結果に加えまして、これまで以上に児童・生徒の意識調査の結果もしっかり活用して、多面的に教育の成果と課題を分析してまいります。その上で、必要に応じて指導方法や支援策の見直しを行って、より効果的な教育活動へとつなげていきたいと思います。また、各学校における指導改善プランですが、学力分析から見た昨年度取組の評価も踏まえたものに改定していき、PDCAサイクルによる一層の推進を図って、さらに継続的な授業改善に努めていきたいと考えております。特に重要な点としまして、上位層のさらなる伸長に加えまして、下位層のきめ細やかな支援を充実させることが挙げられるところです。個別最適な学びの実現として、全ての子どもたちの学びを確実に支える支援の体制を強化してまいります。これらの取組を通じまして、学校全体の授業力向上と学力の底上げを実現して、全ての子どもたちに確かな学びを保障していくことを目指していくものでございます。

本件についてのご説明は以上です。

子ども総務課長　はい。ありがとうございました。

それでは、先ほどと同様に質疑応答に入らせていただきたいと思います。ご意見がございましたらお願いいたします。

清水委員　指導課長からもお話がありましたけれども、全国学力・学習状況調査は、当然、意識調査も取っていると思うのですが、千代田区は意識調査と学力のクロス集計は特にやっていらっしゃらないのですか。

指導課長　この全国学力調査と、部分の意識調査のクロス集計はやっていなくて、達成度調査は区の独自の調査があって、それについてはクロス集計では取っています。

粂原委員　毎年、改善プランというものを出していらっしゃるのですよね。

指導課長　そうですね。大体夏休み時期にしっかり分析して、指導改善プランを作成してもらって、指導主事のほうで拝見して、様々チェックを加え、いくつか、何パターンかしっかり通らないと、許可が出ないという、少し厳しい評価をしながら出しているのがあります。

粂原委員　何かこういう改善をしたらすごく成果が上がったみたいな、そういう報告とかは。

指導課長　やはり授業の在り方ですので、ICTを活用した授業というのをしっかり充実させることだとか、先ほど言った個別最適な学びと協働的な学び、ここをどう推進していくかを、具体的に取り組んでいる例だとかを踏まえて、特に下

位層に集中した、学習授業改善の方法だとかを示しているところでは、少しの改善が見られたというところは報告いただいています。ただ、先ほど少しお話ししたとおり、指導改善プランを、それによって半期で取り組むのですけれども、その評価を翌年度のこの学力調査で評価するだけではなくて、やはり取組自体をもう少ししっかり評価しなければいけないと感じていて、本年度からその辺りに少し改訂を加えようかとは考えています。

粂原委員　ありがとうございました。

子ども総務課長　はい。

そのほか、ございますでしょうか。

高橋委員　この全国学力・学習状況調査の正答率等に関しては、もう本当にこの千代田区の成績がよくて、この後、これをPDCAしても大して上がらないのではないのかという気がします。もしもやるなら、例えば下位層の数字を少なくするとか、別の目標の数値設定になるのではないかという気がしたことが１つです。

それと、もう一つは、上げていくというわけではないのかもしれないのですけれど、４月にOECDであった報告書で、教員の学力というか、教員の知識の量と知識のテストと、PISAの結果を掛け合わせたらどうなるかという調査結果が出て、日本は参加していないのですけれど、OECDの基準を満たしたほどのデータ数ではないからというお断りもあるのですけれど、かなり強い相関があって、やはり先生の知識量が多い国はPISAの成績も高いと。

だから、単純に言うと、直接成績を見ようと思って指導法の改善というのはあるのですけれど、これぐらい上がってくると、中長期的に考えれば、先生の底上げというかスキルを上げていくということが重要だし、その報告書には、一緒に、やはり知識のある先生のほうが世の中の変化とか、かなり過酷な教育の問題に対応しなければいけないみたいなときも適切に対応できる率が高くて、結局先生自身の知識が身を救うみたいな記述もあったので、そういうような意味で、学力調査に限らず包括的に先生の力を上げていくことを通して子どもの力をしっかりつけていくという考え方もあり得るかと思っています。

３つ目、いわゆる見える学力と言われる学力調査の点数が今後どこまで、国はずっとやっていくと思いますけれど、どこまで千代田区として重視していくのかということも考えていかなければいけないところ。もちろん基礎・基本ですのでこれは要るのだと思うのですけれど、なぜかというと、明確な学習目標を言語化すればするほど、いいAIの餌食になるというか、明快であれば、答えが１つであるような言語表現であればあるほど、AIの得意分野になる。だから、AIで表現不能な、ある意味概念的理解とか本質的な理解みたいな概念的な理解だと、例えば「愛」とか言っても、言葉は「愛」ですけれど、「愛」に対しての概念的理解は子どもごとに違うとか大人ごとに違う。

自分の中で構成されて獲得されていくような、ああいうタイプが多分AIに侵されず、最後まで生き残るタイプの理解だと考えていくと、今後、今のと

ころ、国は指導要領を明確にして構造化していくというやり方をしていますけれど、逆にそのことがAIのいい草刈り場になるというか、AIにやられていってしまう状況になっていく。それで、さらに学びに向かう力に人間性などをむしろ簡易的に、実質化という言い方をしていますけれど、むしろ、AI時代に最も重要になるところを、現場の負担を避けるためみたいな感じで縮小していくことの危険というものがある。

だから、OECDもこの二、三十年、PISAの学力で、見える学力みたいなもので世界中が踊らされたところだけれど、ティーチングコンパスとかラーニングコンパスとか、最近はコンパスという、方向とかエージェンシーとか、ほぼ測定不能な、AIにはやられにくい学力を主張する方向ももう一方であるので、つまり二刀流で行っているではないですか。

だから、国の方針ですので、千代田区としてきちんとスコアを確保するけれども、やはり千代田区としてAI時代にAIにやられないというか、AI、イコール、やはり人格を形成していくみたいな、実はドイツとかで言うと、人格の形成みたいなところから組み立て直すみたいな話がやはりすごく出ていて、やはり教育基本法第１条みたいな話に個々の国でも集約していくというか、調べていくと、もともとそこから来ているみたいですけれど、何かそういうような考え方も、少し導入していく可能性もあるのではないかと。

これはあまりにも突拍子もない意見ですので、少し飛んでいるかもしれませんけれど、AIになってこの後どうなるか分からないというときに、明確なものほど言語化可能なものほど生成AIは大好きだということは頭に入れてやっていかなければいけないとなると、この学力調査で答えていくことは、電卓とか計算に例えると、電卓をたたけばいいようなことを一生懸命暗記して、一生懸命やっていて、でしたら生成AIを使って、電卓を使って、もっと複雑なことをやれるみたいなことに行く可能性を考えていかないといけないと思ってございます。だから、評価で深い学びはすごく言語化されているではないですか。

ああいうことをやればやるほど厳しくて、一言概念的に理解するとか、それで全て、重さを概念的に理解するとか、四角形を概念的に理解するとか、対象自体を概念的に理解すると、本当にシンプルに目標に書けるのに、ああいうふうに発揮するとか理解するとか、何か難しく書くと、多分非常に難しくなるのではないかと、ここで愚痴を言ってもしようがないのですけれど、ただ、すごく期待しているので、もう国はああやって動いていて、要は、先生方は明快に書かないと理解できないから明快に書くというやり方を取っているのだけれども、こうやってしっかりした行政があるのであれば、それにプラスアルファして千代田区としてやっていくという可能性はあるかもしれないというところです。

指導課長　ありがとうございます。

子ども総務課長　ありがとうございます。

上岡先生、お願いします。

上 岡 委 員　今の高橋先生の話とつなげますと、やはりこういう明確に数値に出るもの、出ない力というのがずっと議論されています。認知能力と非認知能力という用語も使われています。認知能力も大事だし、こういう点数になること、基礎力というのは大事なことだけれども、それ以外に協働的な学びであるとか、そういうところでも様々な力が、なかなか数値化できないものがあるというところで今の高橋先生のお話とつながってくると思うのですけれども、そういうところをどう育てるかというのをやはりこれからは大事にしていく必要があるのかと思いました。

あともう一つは、もちろん千代田区はこの数字だけを見るとすごく高いのですけれども、一方で先ほどの子どもの居場所のニーズの（５）子どもの居場所として求められている機能で、子どもからの２位が「勉強で分からない部分を学び直せる場所と教えてくれる人」と。保護者も３位になっていますけれども、ここと先ほどの数値だけを見ると、すごく高いから、そんなに心配していないのではないかと思う一方で、先ほどの（５）のデータが結構高い数字だというところはどう考えればいいのかと思っているのですけれど、この関係はどうなのですか。点数は高いけれども、さらに教えてほしいところ、まだ分からないところがあると理解すればいいのですか。

子ども総務課長　この答えてくれた保護者と子どもが体験学習をどう考えているかにはなるかとは思うのです。多分、芸術文化であったり、ビジネス体験と、ここで書かせてはいただいていますけれども、芸術ですと本当に、動くことも、お茶であったり舞踊であったり三味線であったり、それ以外のものもいっぱいあるとは思うのですけれども、そういった、多分学校では教わらない、先ほどの特別活動のほうに近いのかとは思います。それを、多分保護者の方は望んでいる。なかなか、多分千代田では味わえない、千代田区以外の中で活動できる内容、そういう意味も含めて、昨年度おがちよ教育交流事業というのも皆さんにいろいろご審議いただきましたけれども、そういったところを多分保護者の方もお子さんも望んでいらっしゃるのかとは思います。

上 岡 委 員　その２位と３位に「勉強で分からない部分を学び直せる場所」というのがあって、それが、高得点の千代田区でここにポイントがあるというのは、何なのだろうと。

子ども総務課長　これは少し深掘りしないと分からないです。

指 導 課 長　先ほど言ったように、低位層の子も中にはいます。上位層でも、千代田区で中学校年代になるとさらに目指す学校があって、今これに対応するような形で、中学校で放課後学習というところで学生さんを少し入れさせていただいています。学び直しの時間をつくったり、定期考査の２週間前に学生さんとか業者を入れてさせていただいて、あと夏休み、２つの中学校にそういう補充的な講座ということで業者を入れて、そういうのを開設して、少しでもそういった学び直しができるような、そんな環境は、今、整えさせていただいているところです。それが昨年度開始されたところだったので、全国学力・学習状況調査、多分この辺りが少しでも改善してくれればいいかと思い

ます。

上 岡 委 員　そう考えると、千代田区は平均点が高いけれども、まだまだ上を目指したいと、子どもも親も、皆、思っているということですね。

子ども総務課長　はい。

上 岡 委 員　分かりました。

高 橋 委 員　学力調査の問題は基本的な問題で、教師が義務教育段階で指導をしっかりしているかということのチェックだから、本当はもっと教科書に書かれている問題でも学力調査が難しい問題がたくさん載っているので、そういう意味では分からないことはたくさんある。ただ、基礎・基本がうまくいっているということは千代田区の先生たちが献身的に努力、勉強できる人を伸ばすことより、勉強が難しい子をしっかり支えて指導していくことが大変だということを考えると、やはりこのスコアが高いというのは非常に重要だし、そういった意味で下位層というのであれば、下位層を数値目標化して減らしていくということはあり得るかということです。

子ども総務課長　はい。ありがとうございます。

教　育　長　中学校では、九段中等教育学校を含む公立の中学校が３校あります。その３校の平均は高いのです。九段中等教育学校の生徒は受検を受けて来ていますから。そこの差が決して全部が高いわけではないです。だから、例えばここに書いてある中３の65とか、数学の67がありますよね。九段中等教育学校は80ぐらいです。50幾つという学校もあるのです。だから、そういう意味では皆がいいわけではなくて、先ほどの高橋先生の言った教員の知識と学力というのは、確かにそうだと思うのです。

今、それよりもむしろ学級経営力だと思うのです。だから、知識があっても授業が成立しないと全然定着しないというのは、その学校の低いところが何で低いかというと、結局そこにぶち当たるということに、はっきり出てきているかと思います。全体的に知識が低くなっていることがあるとは思うのですけれども。

高 橋 委 員　少し言うと、今の知識というのは指導知識で、３つの領域が書いてあって、ティーチング、ラーニング、アセスメントですので、指導力に関する知識の量なのです。評価内容の知識は測定していなくて、それより教え方とか評価の仕方みたいなことの知識の量がかなり影響している。

教　育　長　もちろん、指導法も含めて。

高 橋 委 員　はい。指導法も含めてです。

教　育　長　ということで、今、学級の様子をいかにして把握してやっていくかというのは、先ほどお見せしたWEBQUを使いながら、やはり指導力の改善も図っていくというのは今最大の課題かと、下位層の子も上げていくのはやはり学級の力が大きいのかというところですかね。

高 橋 委 員　そうですね。

教　育　長　だから、本当に、あと、先ほどの上岡先生の話ですけれど、結構、上位層も下位層も100％近く塾に行っている。でも、そこで教えてほしいというの

は、いわゆる学校や行政に頼っている部分が親も子どももあるのかというようなことを今の調査からは感じているところです。今の大体の様子から行くと、千代田区の実態というのはそんなところかと思っています。

以上です。

子ども総務課長　はい。ありがとうございます。

清 水 委 員　指導改善プランの取組は今後もずっと続けていくべきだとか、これはそろそろ改善していったほうがいいのではないかという点で、指導課長のお考えがもしあれば、教えていただきたいと思います。

指 導 課 長　やはりこの指導改善プランというところが少し形骸化しているかと。これは大分昔からやっているのではないかというぐらいの、これは常にやっているものですので、形骸化しているというのが正直、思っているところです。ですので、ここをどう改善していくか。次の、授業改善もそうですけれども、どこにターゲットを置くかも、１つ、そうだと思うのです。要は指導改善なのか、取組改善なのか、学校としての施策をどう打っていくかとか、学校評価にも関わってくると思うので、そういったところとすごく関連させて広げていかないと、これはあまり意味がないものになってくるだろうというところで、ここには手をつけたいという思いは強くあります。

清 水 委 員　その達成度調査みたいなところというのはどうですか。

指 導 課 長　達成度調査は、今、在り方として、子どもたちに対してのいわゆる、もう、自分の学力の状況等を確認する上では１つの指標になってはいるかと思うのですけれども、そこだけに行ってしまってはいけないかと。達成度調査も業者にお願いしているところはあるのですけれど、その中身だとかも、当然、相談しながら変えていく必要もあるのではないかというところで、これから、より探究的な学びとかをより深めていくところで、達成度調査でそれは測れるか、見えるわけではないので、そういったところの評価も踏まえられるような、そういった部分で調査がさらにブラッシュアップできていけば、いいものになってくるのではないかと。まだ先の段階かもしれないのですけれども、それを考えています。

清 水 委 員　はい。ありがとうございました。

子ども総務課長　はい。ありがとうございました。

何かこの件、よろしいでしょうか。

（な　し）

子ども総務課長　はい。

では、続いてですが、千代田区立学校の体力・運動能力調査における体力合計点平均値に移らせていただきます。

引き続き指導課長、お願いいたします。

指 導 課 長　はい。続いて、体力・運動能力調査についてです。

まず、定量的指標として、千代田区立学校の体力・運動能力調査における体力合計点の平均値を設定しまして、国の調査等を活用して評価しているところでございます。

また、体力状況の把握・分析を踏まえて改善を図るとともに、体力を高める習慣化だとか運動への意欲を高めている姿の表れを目指しているところでございます。そして、体力調査における平均値が全国平均を上回る。そのことを目標として設定して、様々な取組を実施しているところです。

続いてですけれども、体力の現状についてです。下の表やグラフをご覧いただければと思います。

体力合計点については、令和４年度から７年度までの年次比較を行いました。ちょうど50という数値が全国平均として換算し、本区と東京都の数値を出しているところです。

令和４年度から７年度までの調査結果を見ますと、小学校５年生においては、男女ともに体力合計点が全国平均よりも上回る、また同程度の水準を維持しているところです。特に男子を見ていただきますと、４年間を通じて安定して、全国平均を上回っています。小学校段階の体力向上施策についての一定の成果があるかと思います。

一方で中学校２年生を見ていただきますと、男女ともに体力合計点が全国平均を下回る状況が連続していて、小学校段階との違いが出ています。下のグラフの種目ごとの結果を見ますと、上の小学校５年生、左側の男子においては全ての種目で全国平均を超えていまして、その中でも特に反復横とび、あと、学力は特に高い数値が出ているところです。右側の小学校５年生女子ですが、ソフトボール投げ、あと20メートルシャトルラン、あと、長座体前屈は下回っているところですが、それ以外の種目は全国平均を超えており、とりわけ、その中の反復横とび、握力で高い数値が出ているところです。その辺りで行くと、柔軟性、持久力については、男女とも相対的に見て改善すべきポイントかと考えているところです。

下のグラフです。中学校２年生の男子を見ていただきますと、ハンドボール投げ、あと立ち幅とびは全国平均を超えているのですけれども、それ以外の種目が下回っているところです。長座体前屈、20メートルシャトルランに関しては、大きく下回っている状況です。右側の中学校２年生女子では、立ち幅とび、反復横とびの平均が上回っているところですが、それ以外の種目は下回っているところです。ハンドボール投げと20メートルシャトルラン、あと握力は大きく下回る、そんな結果になっています。

続いて、資料の右側の現状の分析になります。小学校段階での成果というのが見られますが、中学校段階では全国平均を下回る傾向が続いている要因についてです。中学校段階になると、学校生活だとか日常生活において外遊びをする機会が減少するとともに、進学等に向けた学習に時間を割いたりすることから運動機会の減少だとか生活リズムの変化に影響しているかと考えられます。

こういった状況を踏まえて、その下にある、関連する施策にある３つの取組を行っています。特に、本区では幼児期から体力づくりを重視していまして、区内全ての学校・園において、コオーディネーショントレーニングの推

進に取り組んでいます。コオーディネーショントレーニングですけれども、単純な動きでありますが、身体だけではなく、脳と心に刺激を与えて、感性や知性の発達につなげる能力向上を目指して、運動を早く学習できるようにするトレーニングになります。

令和７年度からは年間二、三時間のプログラムを全ての学校・園で３回ずつの実施をしてきましたが、令和８年度は全校・園で６回と、さらに倍増させています。特に中学校においてコオーディネーショントレーニングに触れる機会を増やしまして、課題となっている種目の改善につなげるよう取り組んでいるところです。

最後です。右下にある「令和７年度実施施策の成果及び今後の施策の方向性」についてです。小学校５年生が、男女ともに反復横とびの結果がほかの結果と比較して大変大きく上回っています。敏捷性というところを測る反復横とびの結果の向上としましては、いわゆるコオーディネーショントレーニングの一定程度の成果が表れていると考えています。

また、各校（園）には特色ある教育活動で、子どもたちの基礎体力の向上だとか、スポーツに対する興味・関心を高める取組を各校（園）で行っています。小学校段階で全国平均を上回るか、また近い水準を維持しているのは、いわゆる幼少期から運動に親しむ活動に取り組んだ成果の１つかと思います。

一方で、中学校段階の課題改善に向けては、先ほど述べましたコオーディネーショントレーニングの取組を推進し、また多様な運動への意欲と体力の向上を図るとともに、課題の種目である20メートルシャトルラン、持久走、そういったものの全身持久力の向上に向けて、現在、体育・健康教育推進委員会で検討を重ねつつ、体力調査の分析を基に、基礎体力向上に向けた取組をより一層推進していく必要があると考えているところでございます。

本件については以上でございます。

子ども総務課長　はい。ありがとうございます。

教　育　長　条原先生に、先駆けて取り組んでいただいたコオーディネーショントレーニングのこども園での実態を、何かこの辺りの感想があれば。

条 原 委 員　そうですね。コオーディネーショントレーニングは、できる・できないを基準にしているのではなくて、子ども自身が自分で自分の体の感覚を感じながらその動きを獲得していくというところに重きを置いているので、自身の身体感覚を養っていく上では非常に効果が高いのではないかと思います。子どもが自分自身の体と対話することによって脳と神経が刺激されて、基礎体力とか運動能力向上の効果の高さにつながっているのだろうと思います。

そして、もう一つは、人との関わりとか、自己肯定感とか楽しさとか、そういう非認知能力にも大きな影響を与えていると実感しています。コオーディネーショントレーニングは、友達と気持ちを合わせて運動することもすごく大事にしているので、そこでお互いに励まし合ったり、笑い合ったり、うまくいったことを喜び合ったりしています。ぜひ、JACOTのホームページを見

	ていただきたいのですが、中学生もすごく明るい表情で、もっとこういう取組を増やしてほしいというメッセージを発信しており、子どもたちにとって、楽しさや安心感が意欲や自己肯定感につながっていくということを実感する取組かと思います。
教　育　長	ありがとうございます。
子ども総務課長	ありがとうございます。
粂 原 委 員	幼児期から、積み重ねていくので、低学年の数字なども、本当は見てみるといいのかと思うのですけれども、ここに出ているのが小学５年生や中学生ですので。
子ども総務課長	関連する施策で、５歳児の体力調査も、うちは独自でやっているところです。
粂 原 委 員	そうですね。東京都や全国の平均と比較しても、かなり向上しているということが数値にも表れていると思います。
子ども総務課長	ありがとうございます。
上 岡 委 員	今、先生からもお話がありましたけれど、千代田区のコオーディネーショントレーニングをずっと推進してきたというのが、去年も評価したと思うのですけれども、それをやはりこうやって維持して推進してきているというのが、ここに来て成果として表れているのだということを改めて感じました。やはりこの取組を指導課が主導しながらここまで持ってきているというのは、園も含めて、学校と全体でやっているというのは、なかなかほかの区市ではない話なのではないかと思って、これは高く評価すべきものだと思っています。その個々の運動の数値はいろいろあるかもしれないけれども、トータルとしてこういう取組を進めていることは高く評価すべきではないかとは思います。 以上です。
子ども総務課長	ありがとうございます。 高橋先生、お願いします。
高 橋 委 員	このコオーディネーショントレーニングというのをもしもやられていなかったら、もっと大変なことになったのではないのかと。関係する結果が上回っていることを考えると、こういった考え方をもっと広げていくことに尽きるのかと感じました。 少し別ですけれど、部活動の地域展開とか、そういうのとの関係で見て、こういうスコアというのは何か影響を受けたりしているのですか。
指 導 課 長	部活動は、本区の場合、完全外部委託をしているというより、専門的な指導者の下、部活動をやっているので、その回数も、今、いろいろな形で制限をかけているというところもあったりというところでも、この数値的な部分、運動機会という部分では、若干中学校の年代に関して言えば、少し、減っているには減っているかと。ただ、専門的な指導は受けられる環境にはあるというところです。
高 橋 委 員	体力みたいな意味で言うと、厳しいかもしれないという。

指導課長	そうですね。部活動で、昔のように体力向上というところではなく、やはり本人たちの興味・関心に基づいた、そこでのいろいろなことを達成していくという目標がまた少し違うところがあるかと。
高橋委員	そうですよね。部活動は、興味とかですので、とはいえ、こういう平均を上げていくには効果があるとは思うのですけれども、やはり私はこのコオーディネーショントレーニングの流れで考えれば、つくづく、生涯スポーツ的な、体育というよりかはスポーツという考え方で一生懸命やるのかと思っているのです。何か千代田区の施設を子どものうちから使って遊んでいるうちに、大人になってお医者さんにスポーツをしなさいと言われたら、そのまま同じことができるとか、教育というよりかは福祉的な側面のほうが大きいかもしれないのですけれど、トータルで、やはり健康で文化的な生活は体力からみたいなところもあると思うし、体を動かす楽しさとか、これは仲間と一緒にやるほうが楽しいという人はもちろんいるし、苦手な人とかは特にひとりでやりたいという人もいらっしゃると思うし、勉強と同じでいろいろなパターンで、部活でやりたいという方もいますし、生涯にわたってスポーツを楽しむみたいな、そういった観点から、何かここの小学５年生、中学２年生の体力を上げていくというだけではない大きな視点があることのほうが重要かなどと感じております。 以上です。
子ども総務課長	はい。ありがとうございます。
清水委員	皆さんおっしゃったように、このコオーディネーショントレーニングが成果を上げているというのが評価できるところかと思っておりまして、結果を照らし合わせて評価していくことが大事かと思いました。 以前、体力調査、点数が高いところを調べたことがあって、そうしましたらその地域で、朝の時間に皆で走るとか、学校全体でやっているところがいくつかありまして、明らかに周りの地域と有意差が出るほど体力向上しているのです。短い時間でも継続して運動することが体力向上には大切かと思います。
子ども総務課長	ありがとうございます。 そうですね。あと、今、小学校では朝の活動ということで、朝活というのを始業前に教育委員会の事業として、学校は大体８時から始まりますけれども、20分前ぐらいから校庭を開放して、好きなことができるということで週１回、多いところで１校だけですけれど週２回、８校中７校が週１回で、あと１校だけ週２回でやってはいるのですけれど、やはり毎日ではないので、その辺りがどうできるかというところでございます。 ただ、何か、今、本当に有意差が見られるというお話も頂いたので、できればもう少し増やしたいというところがあるのですが、まだ様々学校の事情もありますので、どういう形にできるのかは検討させていただきたいと思います。 それでは、よろしいでしょうか。本日のところは、議題のほうはこれで終

了させていただきたいと思います。

では、続いて、４番のその他でございます。今後のスケジュールでございます。

机上に配付しましたこちらの有識者意見のデータ版を、事務局から皆さんのもとにお送りさせていただきます。来週末に送付を予定しております議事録等をご確認いただきまして、７月８日水曜日を締切りに、メールでのご提出をお願いしたいと思います。

続きまして、次回でございますが、６月22日月曜日の14時30分から、第２回を行わせていただきたいと思っています。当日は、こちら区役所ではなくて、九段中等教育学校で視察させていただきたいと思いますので、直接学校へご来校いただきますようお願いいたします。

また、議事録を含めまして、ホームページ上で公表させていただきます。

何かご不明な点等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

（な　し）

子ども総務課長　はい。それでは、以上をもちまして、第１回有識者会議を終了させていただきます。本日は、お忙しい中、本当に貴重なご意見を頂きまして、ありがとうございます。次回もどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。